

平成 2 7 年度 東海市環境基本計画年次報告書

「未来につなぐ 美しいふるさと東海」
の実現に向けて

平成 2 8 年 1 1 月
東 海 市

目 次

1 市民、事業者、NPOと市の協働による計画推進

各部会の活動報告（平成27年度）

・ 社会環境部会	1
・ 生活環境部会	3
・ 廃棄物・リサイクル部会	5

2 成果指標の評価について

(1) 成果指標一覧表	7
-------------------	---

(2) 成果指標評価表

柱1 社会環境

・ 分野A 大気・ばいじん	8
・ 分野B 水質	9
・ 分野C 騒音・振動	11
・ 分野D 悪臭等	12

柱2 生活環境

・ 分野E 自然	13
・ 分野F 公園・緑地・景観	14
・ 分野G 環境美化	15
・ 分野H 交通	16

柱3 廃棄物・リサイクル

・ 分野I リデュース・リユース	17
・ 分野J リサイクル・適正処理	18

柱4 共通基盤

・ 分野K 地球	20
----------------	----

・ 分野Ⅱ 環境学習・人づくり	21
-----------------------	----

3 参考資料

(1) 環境基本計画推進委員会委員名簿	22
(2) 東海市環境基本計画について	23

- 1 市民、事業者、NPOと市の協働による計画推進
各部会の活動報告

社会環境部会活動報告（平成27年度）

1 活動内容総括

平成19年度の環境基本計画スタート以来、当部会では「水質」分野を重点に、河川・ため池水質浄化事業の一環として環境浄化微生物の配布を行っている。昨年度は、今まで1講座であった社会環境部会発案のエコスクールを「水質」、「資源循環」というそれぞれのテーマで、2講座開催した。

2 河川・ため池水質浄化事業の主な活動内容

平成20年度から実施している河川・ため池水質浄化事業を継続し、環境浄化微生物の市民への無料配布や公共施設での使用により、河川等の水質浄化を目指した。

- ① 市民への無料配布（752本/月）

【配付場所】

市役所1階北玄関・しあわせ村玄関・文化センター事務室入口前

※ 毎月1日・15日配布

- ② 公共施設での使用（248本/月）

【使用公共施設】

しあわせ村、清掃センター、文化センター、保育園（16園）、小学校（2校）、中学校（3校）、あすなろ学園、上野公民館、商工センター、勤労センター、市民体育館、温水プール、公園、運動公園、富木島公民館

3 エコスクール社会環境部会企画講座

「大気・ばいじん」「騒音・振動」「悪臭等」に関して市民・行政・事業者の協働で取り組めるものとして、今回は事業者の協力のもと当部会で企画し、市民が参加し、学べるエコスクールの講座を次のとおり開催した。

① 「水の旅行～河川環境楽園で水の循環を体験～」

日時／場所 平成27年7月11日(土)午前8時30分～午後4時30分／河川
環境楽園

② 「地球の資源とものづくり～地球環境や資源の大切さを学ぼう～」

日時／場所 平成27年9月26日(土)午前8時40分～正午／大同特殊鋼株式
会社知多工場

今後も引き続き、当部会の活動分野に関する講座を委員会内で協議し、企画していく必要がある。

4 今後の課題

平成28年度よりスタートする第2次環境基本計画においては、今まで取り組んでいた「騒音・大気・悪臭」といった公害対策分野に重きをおきつつ、他の分野にも力を入れていく必要がある。

生活環境部会活動報告（平成27年度）

1 部会での活動

平成27年度生活環境部会は年度内に3回の会議を開催した。企画の内容についての検討やPR活動についてのあり方について検討を重ね、よりよい事業の実施に向けた取り組みを行った。

2 実施事業

平成27年度東海市エコスクール 開催実績

- ① 事務局企画講座 9 講座 関連企画講座 14 講座
- ② 公募企画講座 3 講座 保育園共同講座 1 講座
- ③ 参加人数総合計 1,094 人

3 講座の様子



「名古屋港の水質を実感しよう！」
名古屋港内にて、船に乗って採水ポイントへ移動している様子



「加木屋緑地で生き物を調べよう」
加木屋緑地にて、生き物を採取している様子

4 振り返り

東海市エコスクールは、同実行委員会が企画した事務局講座や他課が行う関連講座、一般からの応募で行う公募講座の3つから成り立っており、平成27年度は、28講座（うち1講座中止を含む）、1,094人の参加があった。平成26年度の1,185人より約100人参加者が減少した。

東海市エコスクールの課題は、参加者の長期的な確保及び講座の質の向上である。まず参加者の確保については、講座をよりよい内容にしていくとともに、PRの方法についても再考していく必要がある。また講座については、現在単発で終わる講座ばかりであるため、複数回開くような講座を開き、リピーターの獲得につなげていく必要がある。

廃棄物・リサイクル部会活動報告（平成27年度）

テーマ	目的	内容
環境教育	ごみの減量とリサイクル率向上のために、市民一人ひとりの意識を高めることが課題であるとして、環境教育活動の重点を置き、活動する。	1 環境教育で市民に伝えたいこと (1) 3Rの意義 (2) ごみと資源の分別方法 (3) ごみ処理施設や、その後の最終処分 (4) リサイクルされたものがどのようなものになるか（リサイクルルート） 2 実施内容 (1) 清掃センター施設見学の受入れ 5～6月 11小学校 (2) 出前講座（環境学習） 国際交流協会主催 外国人を対象に実施 ア と き 9月3日（木） イ ところ しあわせ村調理室 (3) エコスクール ア リサイクル探検隊 ㍿ と き 8月5日（水） ㍿ ところ 朝日金属株式会社 本社工場（名古屋市北区）（スチール） アスカ工業株式会社（西尾市）（アルミ）  イ 親子ごみ分別教室 ㍿ と き 8月7日（金） ㍿ ところ 市民活動センター ㍿ 内 容 ・東海市清掃センターはどんなところ？ ・これでばっちり分別ゲーム ・夏休みの自由研究にも役立つ「3Rわくわくシート」作成 ・リアルお買い物ものごっこ



(4) リサイクルフェアの実施

ごみの中の宝物展、フリーマーケットの実施

ア と き 5月22日（金）～24日（日）

イ ところ 市役所地下大会議室 第1駐車場



(5) ごみ分別ゲームの実施、リサイクルルートの展示

秋まつり（消費者広場）に出展・参加

ア と き 11月14日（土）、15日（日）

イ ところ 勤労センター 多目的ホール

(6) 広報・啓発・PRの実施

ア 5～9月1日号広報裏表紙に3R関連記事を連載

イ スマートフォンアプリの導入の検討（平成28年度
予算案計上）

⇒広報誌等を見ない人（特に若年層）向けの啓発ツ
ール

3 今後の取組み

(ア) 引き続き、上記のような出前講座等を実施

(イ) スマートフォンアプリの導入・啓発

(ウ) 市、市民、事業者、団体が一体となって実施する環境
教育

2 成果指標の評価について

(1) 成果指標一覧表

柱	分野	成果指標		単位	基準値	現状値	H21	H22	H23	H23目標	H24	H25	H25目標	H26	H27	H28目標
社会環境	A 大気・ばいじん	①降下ばいじんの量	市内平均	t/㎢・年	4.4	4.6	4.2	3.8	3.8		3.9	4.2	3.5	3.8	3.5	3.5
			北部平均	t/㎢・年	3.3	3.4	2.9	2.7	2.7		2.8	2.8	2.9	2.8	2.6	2.9
			南部平均	t/㎢・年	5.4	5.9	5.6	4.9	4.8		4.9	5.6	4.1	4.9	4.3	4.1
		②大気汚染基準値の達成率		%	73	75	80	80	63		80	80	90	80	80	90
	B 水質	③河川のBOD濃度(大田川大宮橋)		mg/ℓ	14.4	11.7	2.9	4.4	2.8		2.7	2.0	5.0	2.5	2.0	2.7
		④きれいな川に生息している生物の種類数		種	6	13					10	7	25	7	8	25
		⑤下水道普及率		%	43.8	52.3	65.5	68.4	70.2		72.3	74.3	67.5	75.6	76.3	80.0
	C 騒音・振動	⑥環境騒音基準値の適合率		%		67	75	67	67	75	67	67		70	80	85
		⑦自動車交通騒音基準値の適合率		%		100	100	100	100	100	80	100		100	90	100
	D 悪臭等	⑧悪臭の公害苦情件数		件		20	16	12	11	15	14	10		10	7	10
生活環境	E 自然	⑨緑などの自然環境などに満足している市民の割合		%	48.0	49.9	53.7	54.1	56.2		56.5	60.0	60	64.9	67.1	65.0
		⑩水辺で生息している生物の種類		種	96	114	115	117	107		112	108		105	115	117
	F 公園・緑地・景観	⑪まちの公園、街路樹などに満足している市民の割合		%	53.3	54.8	59.0	59.9	60.8		60.1	61.7	65	68.2	69.8	65
	G 環境美化	⑫地域内にポイ捨てが目立つと感じる市民の割合		%	48.7	48.7					54.1	56.3		51.9	51.5	40
	H 交通	⑬環境に配慮してマイカーの利用を工夫している市民の割合		%		—	45.0	42.0	42.8		43.2	46.1	61	38.5	38.3	61
廃・リ	I リデュース ・リユース	⑭市民一人当たりのごみの排出量		g/人・日	656	621	593	566	557		552	546	550	539	526	525
		⑮再生品やエコマーク商品になるべく選ぶ市民の割合		%	40.0	40.5	44	40.7	39.2		38.7	37.3	60	36.2	34.8	60
		⑯エコショッピングに協力する店舗数		店		0	19	21	17	100	86	91		88	86	200
	J リサイクル ・適正処分	⑰-1市民一人当たりのごみの資源化量		g/人・日	179	190	152	140	136		131	125	200	—	—	220
		⑰-2民間を含む市民一人当たりのごみの資源化量		g/人・日	196	196					203	197		194	190	220
		⑱ごみのリサイクル率		%	21.4	25.3	23	22.6	22.4		22.2	21.8	30	21.2	21.0	30
		⑲最終処分場の年間埋立量		㎡/年	2,161	1,726	1,644	1,523	1,531		1,485	1,393	1,520	2,120	3,233	1,300
共通基盤	K 地球	⑳-1 1世帯当たりの電気使用量		kW		5,398	4,948	5,282	4,983	5,128	4,907	4,834		4,541	—	4,858
		⑳-2 1世帯当たりのガス使用量		㎡		365	362	371	376	347	375	358		356	348	329
	L 環境学習 ・人づくり	㉑環境に関する行事に参加している人の割合		%		—	26	27.0	26.6	30.0	23.7	23.3		26.5	25.7	35

※網かけのある成果指標は、後期計画から新規、変更した指標

※網かけのあるH25目標、H28目標は、目標を達成した指標

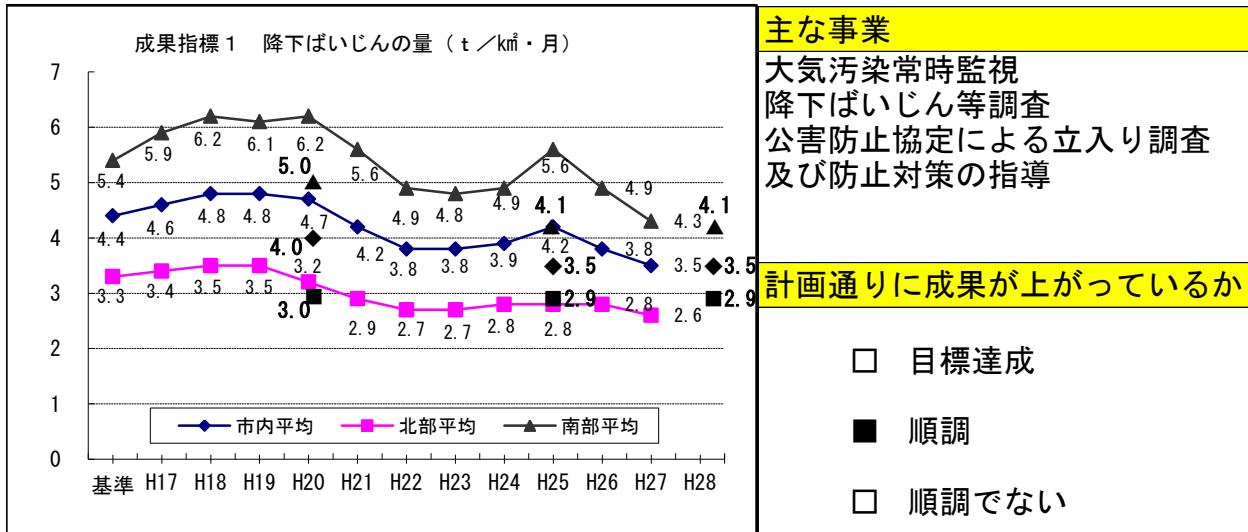
※指標No.⑯は24年度から算出方法の変更

※現状値はH17数値 ただし、指標No.④、⑫、⑰-2は23年度数値

※⑰-1、⑰-2の指標は⑰-2に統合する

(2) 成果指標評価表

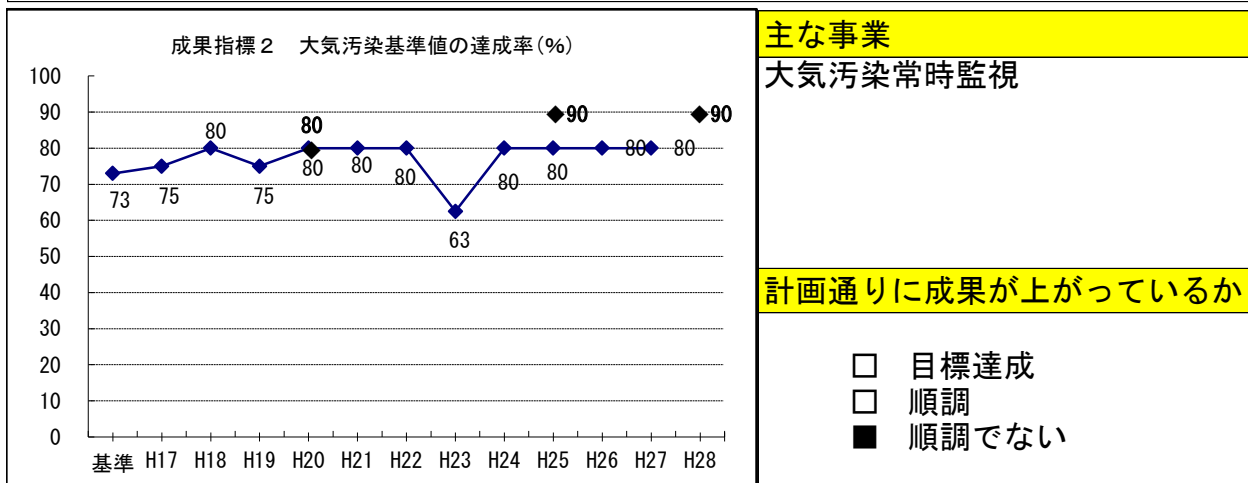
柱	1 社会環境
分野	A 大気・ばいじん
ビジョン	きれいな空気の中で暮らせるまち



成果指標の分析

平成27年度の降下ばいじん量は市内平均3.5t(北部平均2.6t、南部平均4.3t)で前年度と比べ0.3tの減少となり、南部平均以外は28年度目標値を達成している。臨海部企業はばいじん発生対策を常に実施しており、発じん防止対策の効果が表れている。

一方で、降下ばいじんや降下ばいじん以外の大気汚染により生活に支障があると感じている人の割合は悪化もしくは横ばいとなっており、対策の効果が市民に実感されていない。



成果指標の分析

事業所への総量規制、自動車排ガス対策等により、平成27年度は二酸化硫黄、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質が環境基準を達成したものの、光化学オキシダントは全局で未達成であった。光化学オキシダントについては、発生のメカニズムが複雑であり改善が進んでいないため、全国的にも平成26年度の達成率は一般局0%であり、効果的な対策がないのが現状である。

成果が向上する余地(可能性)は？

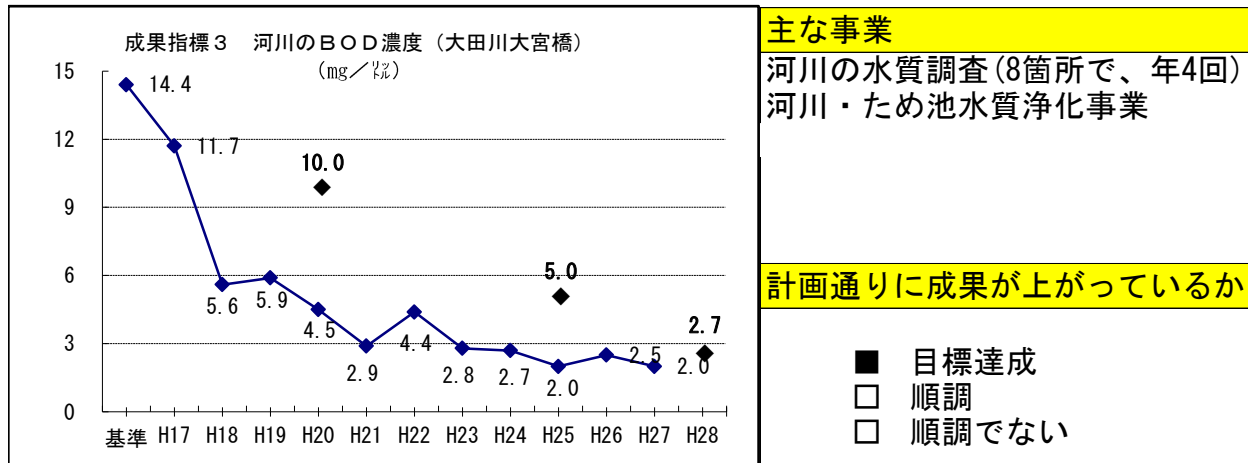
☐ 大 ☒ 中 ☐ 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

降下ばいじんは、南部が北部の約2倍と多いため、発生原因の分析をさらに進め、引き続き企業に対して発じん対策等、環境対策を指導し実現することで改善する余地がある。

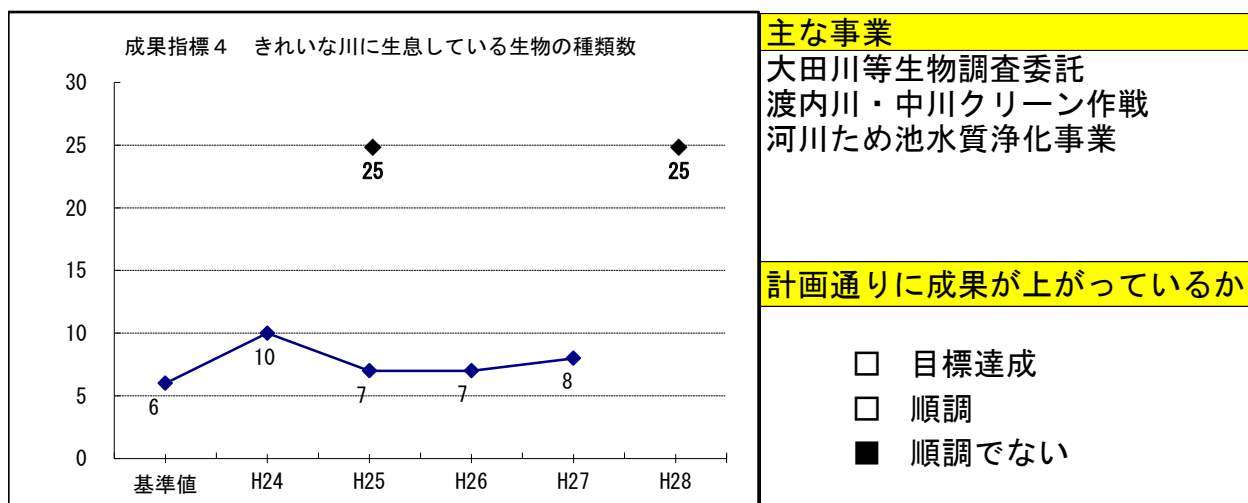
また市民が市内の大気汚染状況や企業の環境対策について知ることができる機会をつくり、情報提供の仕組みをより充実させる必要がある。

柱	1 社会環境
分野	B 水質
ビジョン	川や池を身近に感じて暮らせるまち



成果指標の分析

河川の水質調査は、季節や天候による影響はあるものの、20年度以降は全般的に数値が改善され、28年度の目標値についても達成している。これは、下水道の整備・普及が進み、生活排水の流入が減少したことが大きな要因と考える。



成果指標の分析

確認された指標生物は、前年度より1種類増え、8種類となったが、目標値と比べると大きな差があり、河川環境に係る大きな変動はない。

成果が向上する余地（可能性）は？

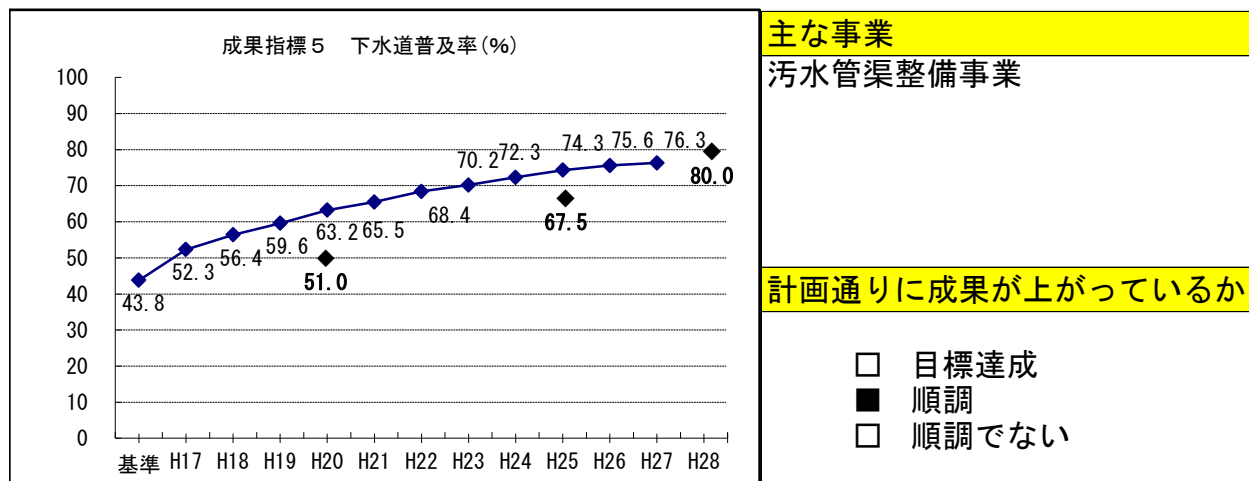
☐ 大 ☒ 中 ☐ 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

河川や海域の汚れは生活排水の流入による要因が大きいため、下水道の整備拡充を推進することによりさらに向上する余地がある。

また、河川整備や下水道整備などのハード面での施策だけでなく、環境美化活動・環境学習等により河川の環境への関心を高めるなど、ソフト面での施策を今後展開していく必要がある。また今後は水環境・水循環や生物多様性の保全に努めていく必要がある。

柱	1 社会環境
分野	B 水質
ビジョン	川や池を身近に感じて暮らせるまち

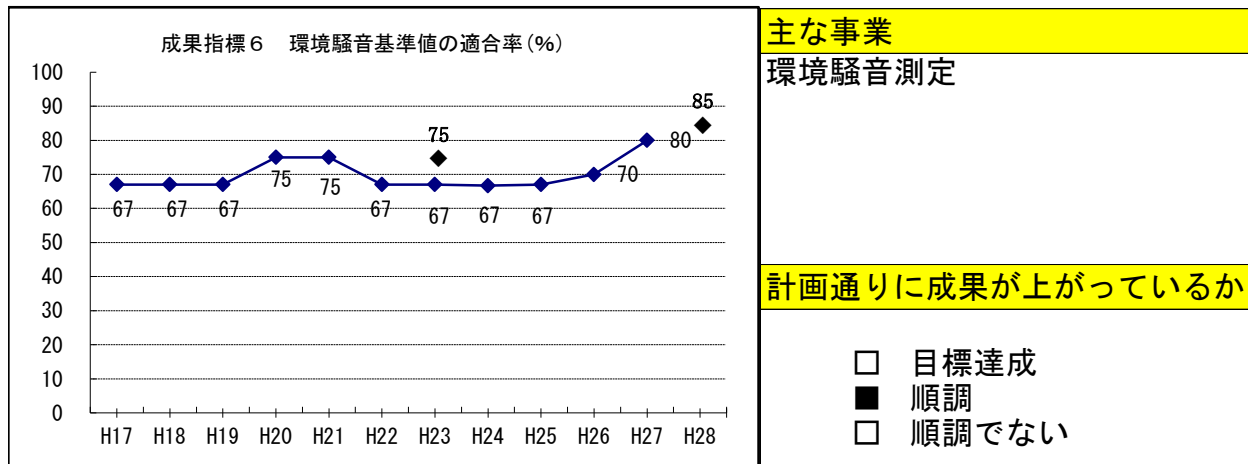


成果指標の分析

平成27年度の下水道普及率は前年度に比較し、0.7ポイント増加の76.3%となった。これは、名和町、大田町で整備済面積が増加したことによるもので、28年度目標値である80%に向け順調に推移している。

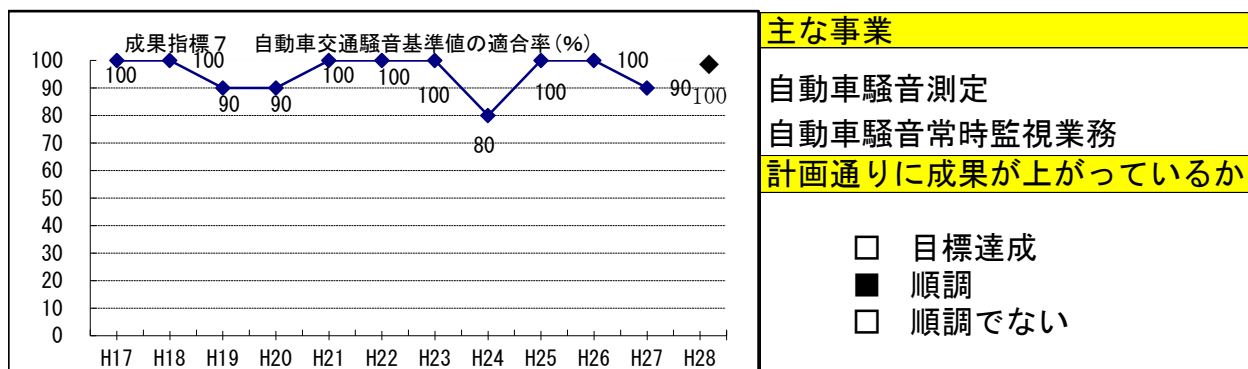
成果が向上する余地（可能性）は？	☐ 大 ☒ 中 ☐ 小
成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針	
污水管渠整備には多大な経費を要するため、一度に成果を向上することはできないが、事業認可内の面整備工事を着実に実施することにより、成果向上が見込まれる。今後も供用開始区域においては、早期の下水道接続を促していく。	

柱	1 社会環境
分野	C 騒音・振動
ビジョン	静かでおだやかに暮らせるまち



成果指標の分析

測定調査は、名和町2地点、中央町、中ノ池、横須賀町、加木屋町の市内6地点で実施している。27年度は、昼間の測定のすべての地点で環境基準を達成した。夜間の測定では、緑陽敬老の家（名和町）、市役所（中央町）の2地点が達成できなかったが、28年度目標値に向け順調に推移していると考ええる。



成果指標の分析

自動車騒音は、名和町2地点、荒尾町、高横須賀町、加木屋町の市内5地点で昼間、夜間に調査を実施している。

27年度は、千鳥津波避難所（名和町）の夜間で要請限度を1dB（デシベル）超過したが、ほぼ横ばいと考ええる。

成果が向上する余地（可能性）は？

☐ 大 ☐ 中 ☒ 小

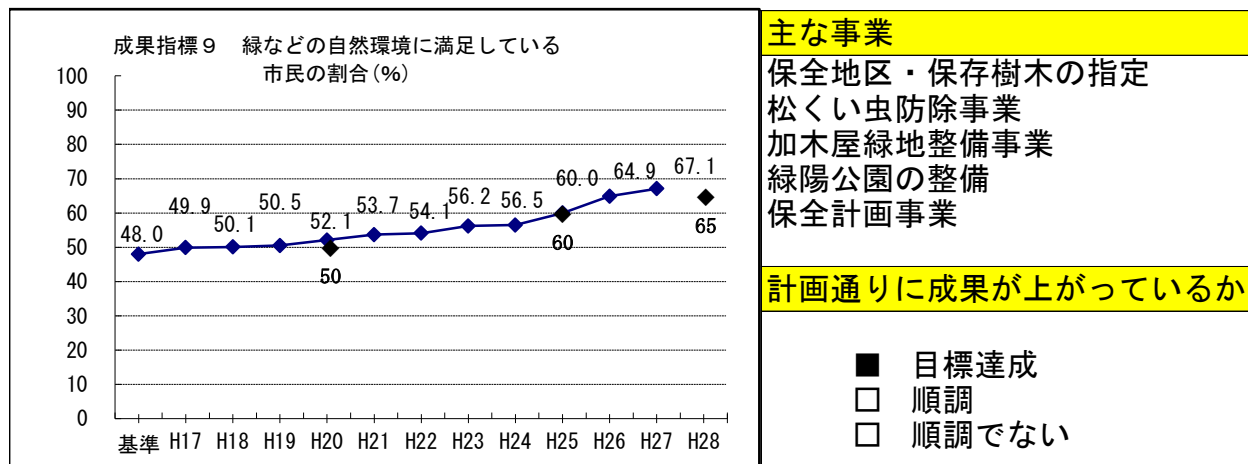
成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

環境騒音が夜間に超過していることから、交通量増加に伴うものと考えられる。また近年、日常生活に伴う近隣騒音も問題化しているため、市民への啓発を行っていく必要がある。

柱	1 社会環境
分野	D 悪臭等
ビジョン	健康で安心して暮らせるまち

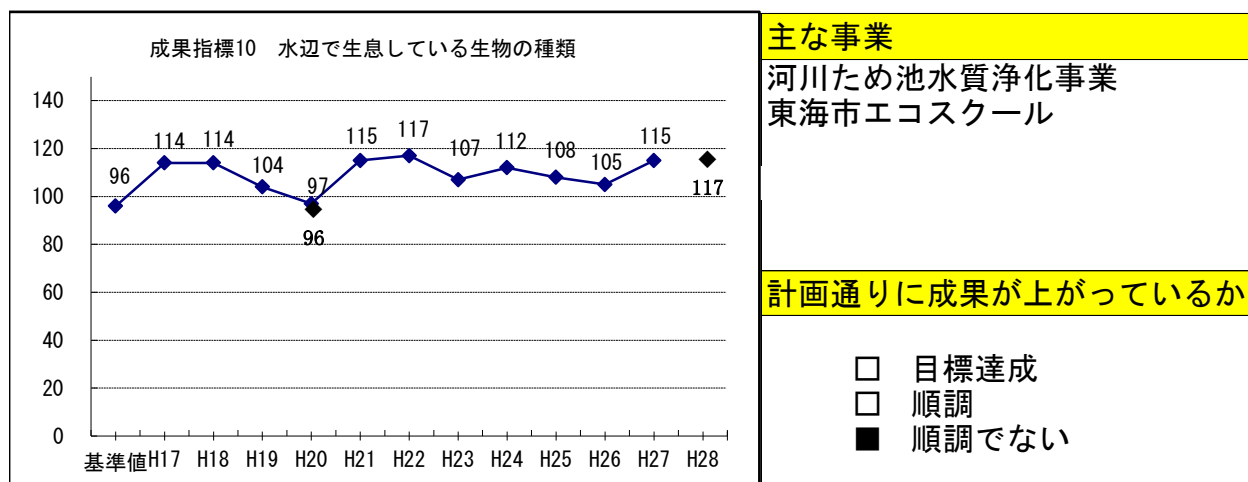
成果指標 8 悪臭の公害苦情件数 <table border="1"> <caption>悪臭の公害苦情件数 (実績値)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H17</td><td>20</td></tr> <tr><td>H18</td><td>10</td></tr> <tr><td>H19</td><td>20</td></tr> <tr><td>H20</td><td>10</td></tr> <tr><td>H21</td><td>16</td></tr> <tr><td>H22</td><td>12</td></tr> <tr><td>H23</td><td>11</td></tr> <tr><td>H24</td><td>14</td></tr> <tr><td>H25</td><td>10</td></tr> <tr><td>H26</td><td>10</td></tr> <tr><td>H27</td><td>7</td></tr> <tr><td>H28</td><td>10</td></tr> </tbody> </table>	年度	件数	H17	20	H18	10	H19	20	H20	10	H21	16	H22	12	H23	11	H24	14	H25	10	H26	10	H27	7	H28	10	主な事業 臭気測定 公害防止協定による立入調査 及び防止対策の指導 計画通りに成果が上がっているか ☒ 目標達成 ☐ 順調 ☐ 順調でない
年度	件数																										
H17	20																										
H18	10																										
H19	20																										
H20	10																										
H21	16																										
H22	12																										
H23	11																										
H24	14																										
H25	10																										
H26	10																										
H27	7																										
H28	10																										
成果指標の分析 27年度の悪臭の苦情件数は前年度から3件減り、7件となり28年度目標の10件を達成した。 苦情の内訳として、不動産業が1件、製造業が1件、農業が1件、家庭生活が2件、不明が2件であった。																											
成果が向上する余地（可能性）は？ ☐ 大 ☐ 中 ☒ 小																											
成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針 年度によって数値にばらつきがあるため、28年度の目標値達成は不透明であるが、27年度は28年度の目標値を達成しており、苦情件数は横ばいにある。 特定の事業者に対して苦情が長期化する場合もあるため、定期的に悪臭測定を実施し、事業者の監視をしていく。																											

柱	2 生活環境
分野	E 自然
ビジョン	次世代につなげる生命（いのち）ある自然環境の保全



成果指標の分析

平成27年度の緑などの自然環境に満足している市民の割合は、昨年度よりも2.2%の増加、基準値よりも19.1%の増加となり、順調に目標値達成に向かっていく。現行の施策を継続するとともに、花と緑にあふれるまちづくりを目指していく必要がある。



成果指標の分析

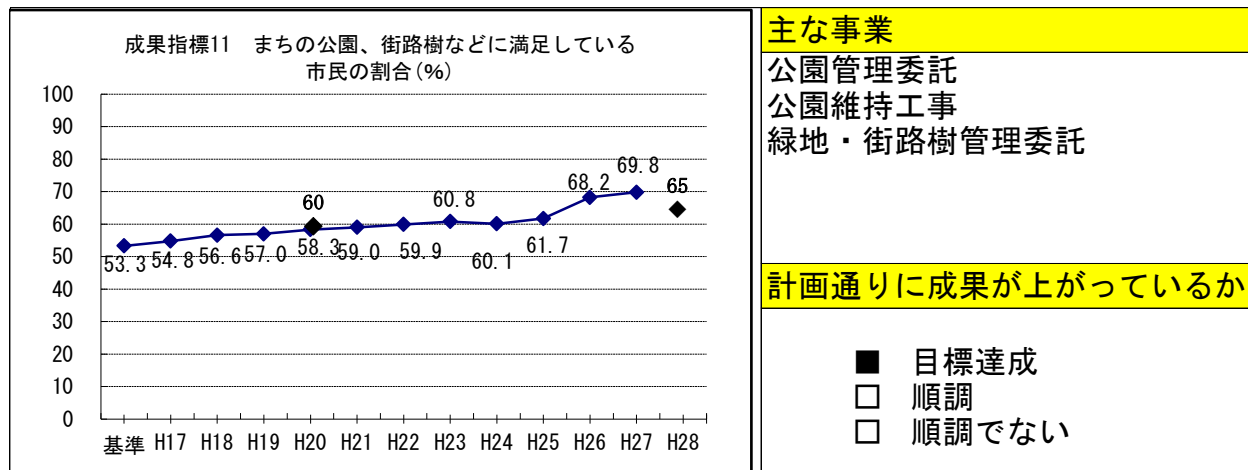
平成27年度は昨年度より10種類増となった。調査の時期や天候等により確認できない場合もあり誤差の範囲内と考える。

成果が向上する余地（可能性）は？	☐ 大 ☒ 中 ☐ 小
成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針	

緑の基本計画に基づき加木屋緑地や緑陽公園等の整備・保全を進めるほか、保全地区・保存樹木未登録者の登録推奨、緑の保全のための調査研究を実施することにより成果向上の余地はある。

また社会環境の水質分野と生活環境の自然分野を広く考え、自然のために水環境を整えるという考えのもと取り組んでいく必要がある。

柱	2 生活環境
分野	F 公園・緑地・景観
ビジョン	花と緑あふれる心安らぐまちづくり



成果指標の分析

平成27年度のまちの公園、街路樹などに満足している市民の割合については、昨年度より1.6%の増加、基準値よりも16.5%の増加と順調に増加し目標値を達成した。市内公園の管理や緑地の整備の推進が、数値が向上した要因ではないかと考える。

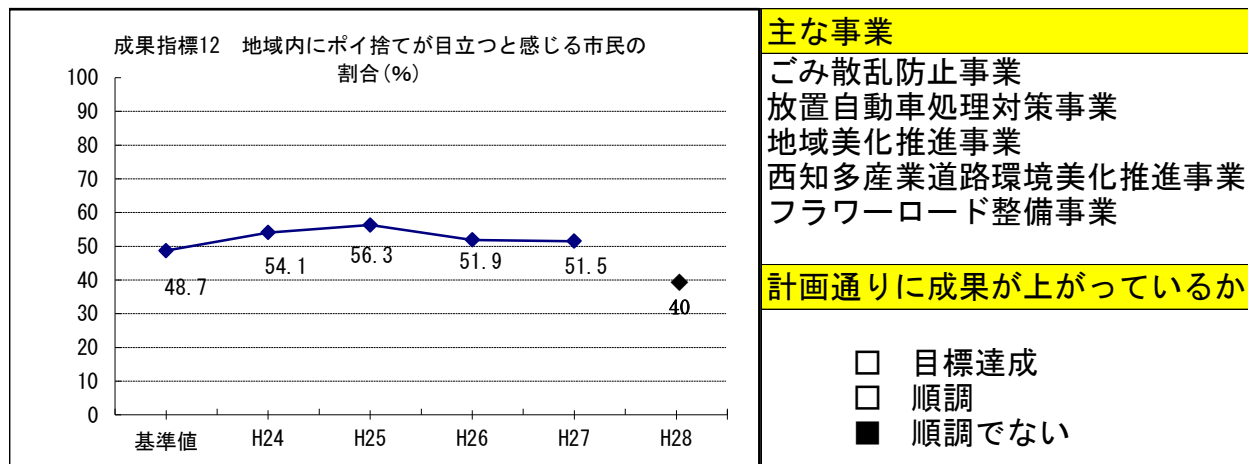
成果が向上する余地（可能性）は？

☐ 大 ☒ 中 ☐ 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

引き続き、公園や環境保全林の整備を進めるとともに、宅地開発業者等に緑地の保全・確保に努めてもらう。また、公園だけでなく私有緑地の管理を推進し広く東海市の自然を保全していくことが必要である。

柱	2 生活環境
分野	G 環境美化
ビジョン	道路も公園も自分の庭 めざそうポイ捨てゼロのまち



成果指標の分析

平成27年度は、昨年度よりも0.4%向上した。不法投棄されたゴミの回収量は年々減っていることから、市民のゴミ問題に対する意識レベルの向上に繋がり、成果指標の割合の減少に繋がったのではないかと考える。

成果が向上する余地（可能性）は？

☐ 大 ☒ 中 ☐ 小

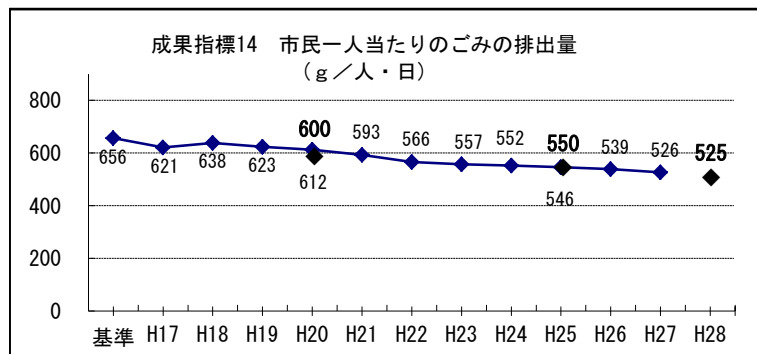
成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

今後も、道路や公園などにポイ捨てをしないよう市民のモラル向上が必要であり、そのためには啓発活動や地域美化活動の促進を図ることが必要である。

柱	2 生活環境
分野	H 交通
ビジョン	環境に配慮した安心便利な交通システムの整備

成果指標13 環境に配慮してマイカーの利用を工夫している市民の割合(%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H17</td><td>44.5</td></tr> <tr><td>H18</td><td>45.6</td></tr> <tr><td>H19</td><td>44.7</td></tr> <tr><td>H20</td><td>45.0</td></tr> <tr><td>H21</td><td>42.0</td></tr> <tr><td>H22</td><td>42.8</td></tr> <tr><td>H23</td><td>43.2</td></tr> <tr><td>H24</td><td>46.1</td></tr> <tr><td>H25</td><td>61</td></tr> <tr><td>H26</td><td>38.5</td></tr> <tr><td>H27</td><td>38.3</td></tr> <tr><td>H28</td><td>61</td></tr> </tbody> </table>	年度	割合(%)	H17	44.5	H18	45.6	H19	44.7	H20	45.0	H21	42.0	H22	42.8	H23	43.2	H24	46.1	H25	61	H26	38.5	H27	38.3	H28	61	主な事業 エコスクール事業 計画通りに成果が上がっているか ☐ 目標達成 ☐ 順調 ☒ 順調でない
年度	割合(%)																										
H17	44.5																										
H18	45.6																										
H19	44.7																										
H20	45.0																										
H21	42.0																										
H22	42.8																										
H23	43.2																										
H24	46.1																										
H25	61																										
H26	38.5																										
H27	38.3																										
H28	61																										
成果指標の分析 平成27年度は、昨年度と比較すると、0.2%減少し低い値となった。工夫の内容としては、マイカーの使用を控えると答えた方の割合が多く、次いでアイドリングストップをしていると答えた方の割合が多かった。																											
成果が向上する余地（可能性）は？	☐ 大 ☒ 中 ☐ 小																										
成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針 環境保全に配慮した市民、企業の活動を促進するためのエコスクール事業や啓発事業等の内容を見直し、充実させることにより、成果向上する余地がある。																											

柱	3 廃棄物・リサイクル
分野	I リデュース・リユース
ビジョン	買う人・売る人・作る人 いつも心に“もったいない”



主な事業

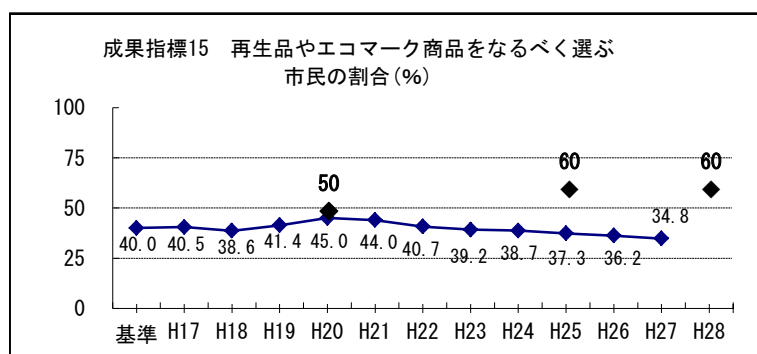
ごみ指定袋制、レジ袋の有料化
集積場所での資源回収
EM処理剤の無料配布
広報等による啓発

計画通りに成果が上がっているか

- ☐ 目標達成
☒ 順調
☐ 順調でない

成果指標の分析

「市民一人当たりのごみ排出量」は19年度から徐々に減少し、27年度は、26年度より13g減の526gとなり、順調に推移している。
プラスチック製容器包装及び小型家電等の資源化が進んでおり、順調に後期目標値に近づいている。



主な事業

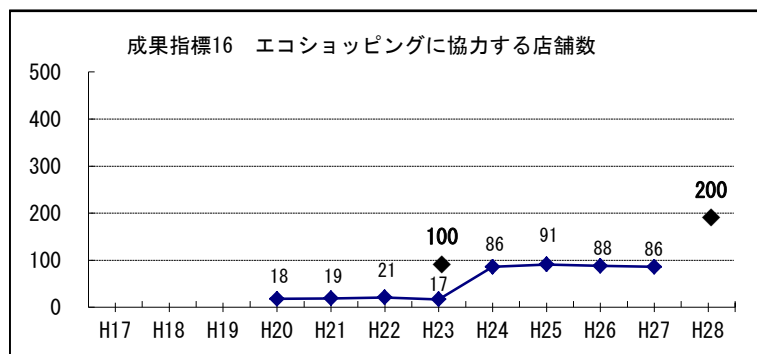
リサイクルフェア
資源集団回収
分別収集事業
広報等による啓発

計画通りに成果が上がっているか

- ☐ 目標達成
☐ 順調
☒ 順調でない

成果指標の分析

「再生品やエコマーク商品になるべく選ぶ人の割合」は、20年度をピークに徐々に下がり続け、23年度から基準値を下回っており、順調とはいえない。循環型社会の形成のため、市民が再生品やエコマーク商品を選ぶように促すための啓発が必要である。



主な事業

レジ袋有料化
広報等による啓発

計画通りに成果が上がっているか

- ☐ 目標達成
☐ 順調
☒ 順調でない

成果指標の分析

「エコショッピングに協力する店舗数」は後期計画から定義付けを改め、数値の把握に努めたため、24年度には大幅に増加した。しかし、店舗の新設や閉店を確実に把握することが困難であることが課題である。また、27年度も、レジ袋有料化協力店舗であったスーパーマーケットが2店舗脱退したことから、店舗の協力を維持することは今後も困難といえる。

成果が向上する余地（可能性）は？

☐ 大 ☐ 中 ☒ 小

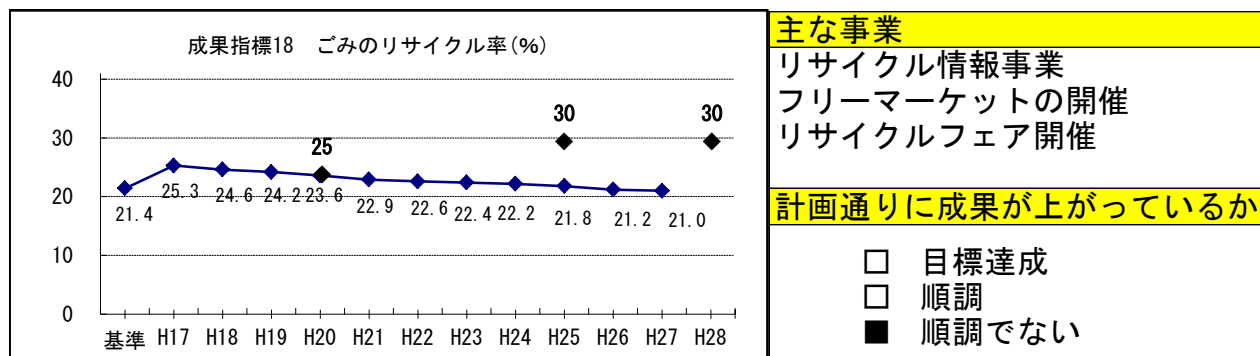
成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

- ①ごみ減量やリサイクルに関心の薄い30歳代以下の年代にも関心を持ていただけるよう、スマートフォン用生活情報アプリ「東海なび」の活用により、啓発を強化する。
- ②28年度に策定する「ごみ処理基本計画」に、「消費期限を意識して買い物をする」や「食べ残しをしない」等、市民が取り組みやすい方を位置付ける。
- ③清掃センターでの小学生の社会見学、リサイクルフェア及び各種講座の際に、3R及びエコマークについて、積極的に情報提供していく。

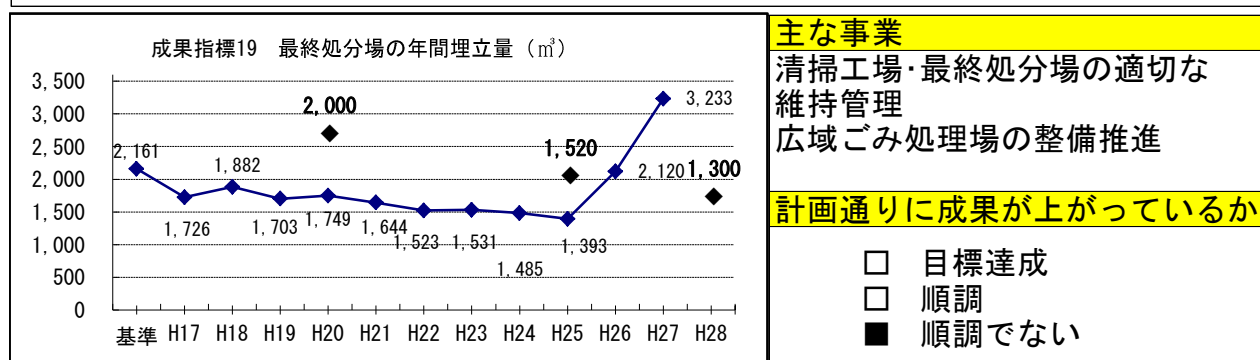
柱	3 廃棄物・リサイクル
分野	J リサイクル・適正処理
ビジョン	子どもの未来を考えて、自然にやさしい処理・処分

成果指標17-1 市民一人当たりのごみの資源化量 (g/人・日) <table border="1"> <caption>成果指標17-1 市民一人当たりのごみの資源化量 (g/人・日)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>資源化量 (g/人・日)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>基準</td><td>179</td></tr> <tr><td>H17</td><td>190</td></tr> <tr><td>H18</td><td>185</td></tr> <tr><td>H19</td><td>175</td></tr> <tr><td>H20</td><td>165</td></tr> <tr><td>H21</td><td>152</td></tr> <tr><td>H22</td><td>140</td></tr> <tr><td>H23</td><td>136</td></tr> <tr><td>H24</td><td>131</td></tr> <tr><td>H25</td><td>125</td></tr> </tbody> </table>	年度	資源化量 (g/人・日)	基準	179	H17	190	H18	185	H19	175	H20	165	H21	152	H22	140	H23	136	H24	131	H25	125	主な事業 リサイクル情報事業 フリーマーケットの開催 リサイクルフェア開催
年度	資源化量 (g/人・日)																						
基準	179																						
H17	190																						
H18	185																						
H19	175																						
H20	165																						
H21	152																						
H22	140																						
H23	136																						
H24	131																						
H25	125																						
成果指標17-2 民間を含む市民一人当たりのごみの資源化量 (g/人・日) <table border="1"> <caption>成果指標17-2 民間を含む市民一人当たりのごみの資源化量 (g/人・日)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>資源化量 (g/人・日)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>基準値</td><td>196</td></tr> <tr><td>H24</td><td>203</td></tr> <tr><td>H25</td><td>197</td></tr> <tr><td>H26</td><td>194</td></tr> <tr><td>H27</td><td>190</td></tr> <tr><td>H28</td><td>220</td></tr> </tbody> </table>	年度	資源化量 (g/人・日)	基準値	196	H24	203	H25	197	H26	194	H27	190	H28	220	計画通りに成果が上がっているか ☐ 目標達成 ☐ 順調 ☒ 順調でない								
年度	資源化量 (g/人・日)																						
基準値	196																						
H24	203																						
H25	197																						
H26	194																						
H27	190																						
H28	220																						
成果指標の分析 「民間を含む市民一人当たりのごみの資源化量」は、25年度から徐々に減となっている。これは容器包装自体の軽量化や新聞の購読数の減少等によるものと考えられる。品目ごとに見ると、プラスチック製容器包装や小型家電の回収量は増加傾向にあり、紙類・缶類は減少傾向である。特に紙類・包装紙等の雑紙に資源化の余地があると考えられる。 ※ 平成26年度より成果指標17-2へ統合																							

柱	3 廃棄物・リサイクル
分野	J リサイクル・適正処理
ビジョン	子どもの未来を考えて、自然にやさしい処理・処分



成果指標の分析
ごみ搬入量・資源回収量ともに減っており、リサイクル率も減となっている。資源量の減は容器包装自体の軽量化や新聞講読数の減少等によるものと考えられる。紙箱・包装紙等の雑紙に資源化の余地がある。



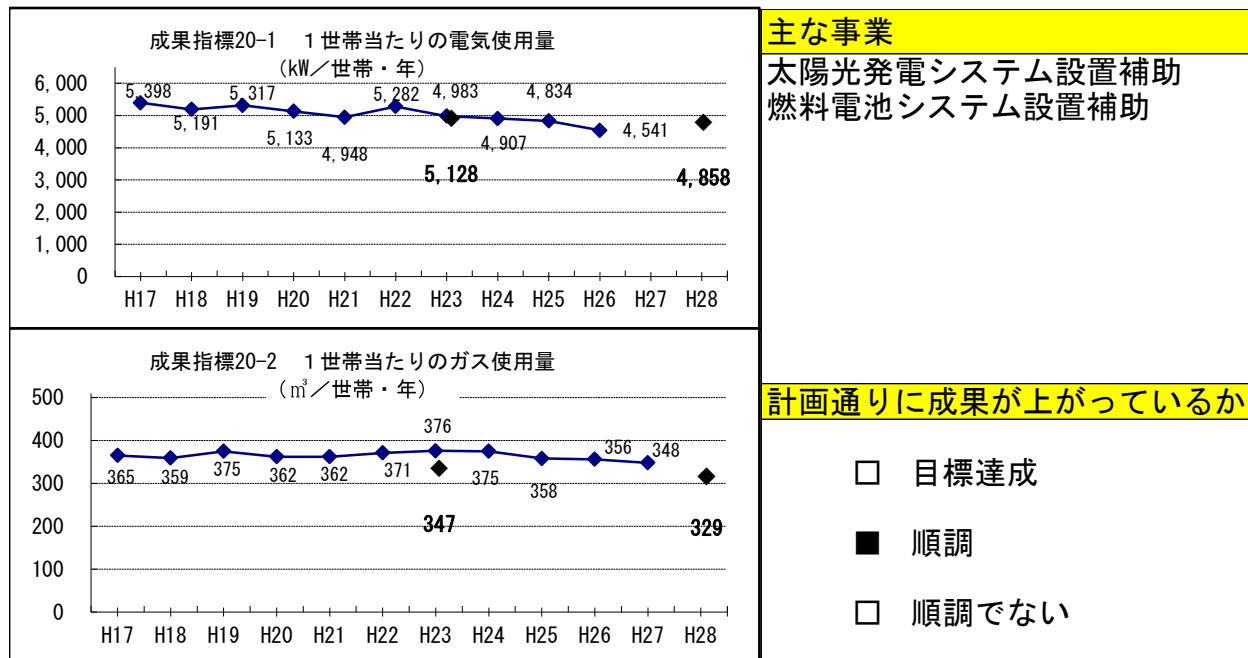
成果指標の分析
25年度までは、緩やかに減少した埋立量が、26年度は、灰溶融炉の故障等で焼却灰の処分が必要になり、27年度は、灰溶融炉の整備費を抑えるため1炉運転体制としたため、焼却灰の埋立量が増加した。

成果が向上する余地(可能性)は？ ☐ 大 ☐ 中 ☒ 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

- ①ごみ減量やリサイクルに関心の薄い30歳代以下の年代にも関心を持っていただけるよう、スマートフォン用生活情報アプリ「東海なび」の活用により、啓発を強化する。
- ②清掃センターでの小学生の社会見学、リサイクルフェア及び各種講座の際に、3Rや適正排出について、積極的に情報提供していく。
- ③焼却飛灰の資源化を検討するとともに、焼却灰の場外処分先の受入能力を把握し、埋立と資源化の適正な割合を見極める。

柱	4 共通基盤
分野	K 地球
ビジョン	自分達の手でライフスタイルを見直し、 きれいな地球を守る



成果指標の分析

- ①電力の自由化に伴い、中部電力よりの数値取得が不可。
- ②ガスの市内契約数は、ここ数年増加傾向にあり、それに伴い家庭用のガス供給量も増加している。しかし、一世帯当りの使用量に関してはここ数年横ばい傾向だが、平成26年度と比べると27年度は多少減少している。

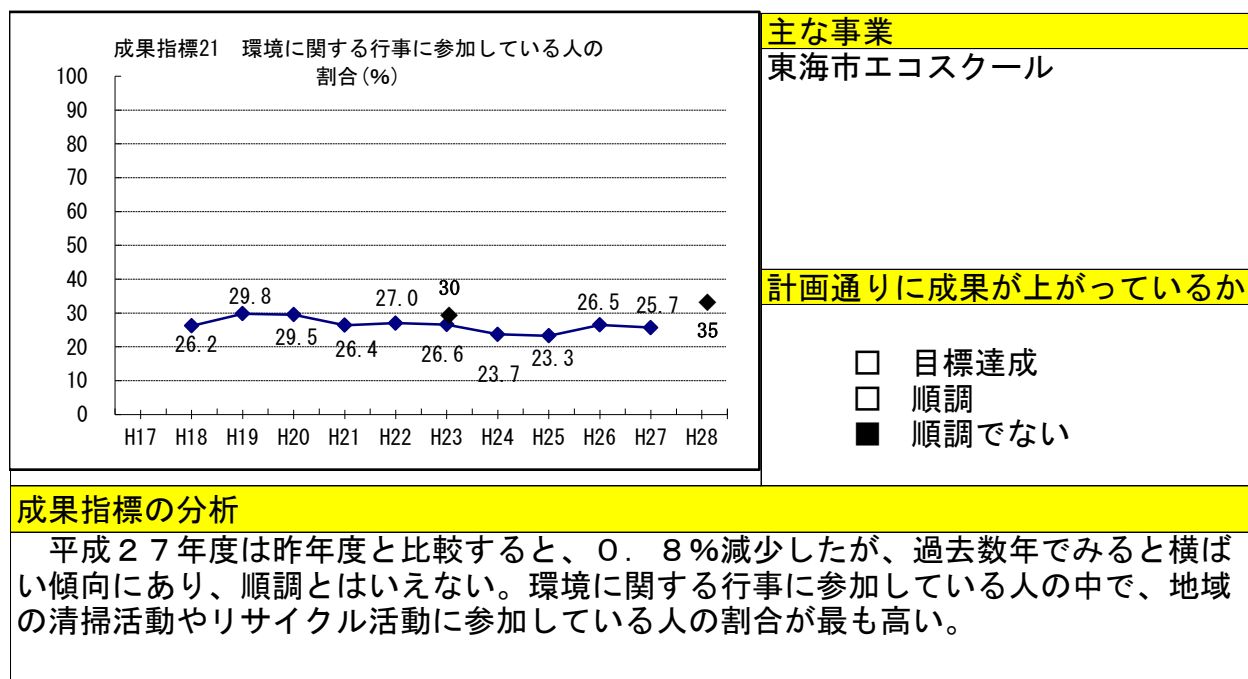
成果が向上する余地（可能性）は？

☐ 大 ☒ 中 ☐ 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

エネルギー消費は景気や気温に影響することが大きい。これらについては、省エネ効果の高い機器や太陽光発電システムの設置の促進を行なうことにより、改善が図れると考える。

柱	4 共通基盤
分野	L 環境学習・人づくり
ビジョン	学・思・行 相まって、未来につなげる人づくり



成果が向上する余地（可能性）は？	☐ 大 ☒ 中 ☐ 小
成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針 エコスクールに力を入れることはもちろんのこと、広く環境教育に着目し、人と人とのつながりを育むような場を提供していく。 また、環境の関心を高めるために、メディア、広報紙、生活情報アプリ等を使って、積極的に広報活動を行っていき、エコスクールの認知度を上げる必要がある。	

3 参考資料

(1) 平成27年度環境基本計画推進委員会委員名簿

役 職	所属部会	氏 名	区 分
委 員 長	社 会※1	早 川 宏 司	事業者を代表する者
副委員長(職務代理) 社会環境部会長	社 会	山 本 隆 明	事業者を代表する者
		(田 中 成 朗)	事業者を代表する者
副委員長 生活環境部会長	生 活※2	倉 橋 和 宏	事業者を代表する者
		(若 杉 勇)	事業者を代表する者
副委員長 廃・リ部会長	廃・リ※3	深 谷 保	事業者を代表する者
社会環境部会 職務代理	社 会	寺 島 賀 子	市内に住所を有する者
委 員	社 会	秋 山 和 子	NPOを代表する者
〃	社 会	品 川 康 子	市内に住所を有する者
生活環境部会 職務代理	生 活	平 松 俊 彦	NPOを代表する者
委 員	生 活	追 分 僚 子	市内に住所を有する者
〃	生 活	吉 鶴 弥 生	市内に住所を有する者
〃	生 活	斉 藤 博	NPOを代表する者
廃・リ部会 職務代理	廃・リ	小 島 知恵子	NPOを代表する者
委 員	廃・リ	森 岡 良 枝	NPOを代表する者
〃	廃・リ	毛 利 まり子	市内に住所を有する者
〃	廃・リ	河 合 勲	事業者を代表する者
アドバイザー	—	千 頭 聡	学識経験者(日本福祉大学教授)

※1 社会は社会環境の略

※2 生活は生活環境の略

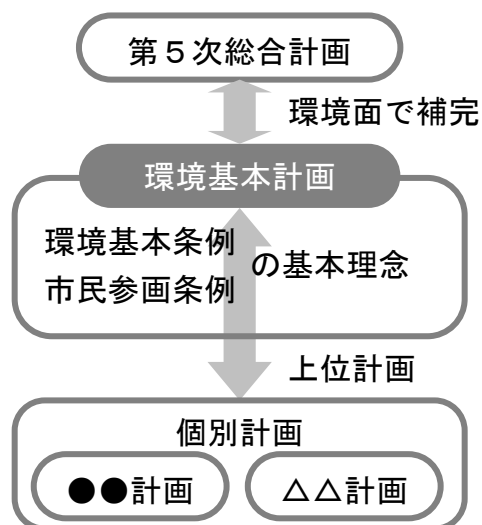
※3 廃・リは廃棄物・リサイクルの略

(2) 東海市環境基本計画について

1 計画の位置付け

東海市環境基本計画は、
第5次総合計画を環境面で補完し、
個別計画の環境面での上位計画と
なるものです。

また、環境基本条例の基本理念を
実現するための指針であり、同時に
市民参画条例で定める市民参画の
基本理念を実現するものでもあります。



2 計画の概要

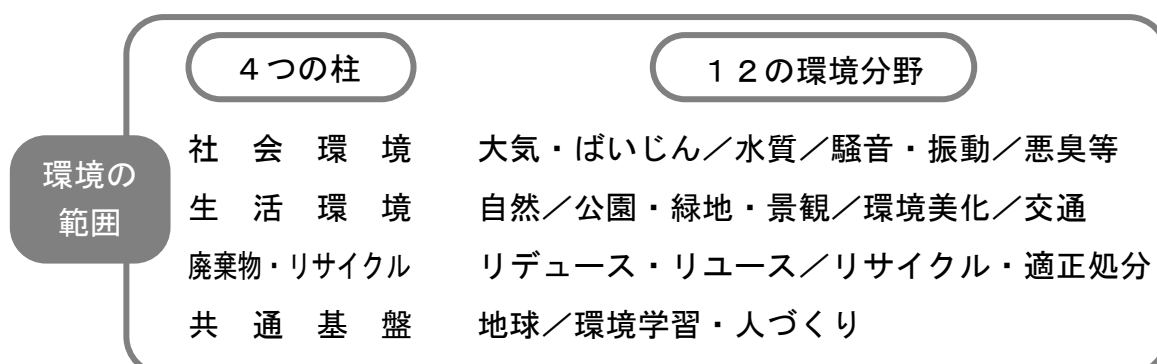
計画期間



将来人口



対象とする範囲



3 めざす環境ビジョン

環境
ビジョン

未来につなぐ 美しいふるさと東海

柱ごとの
ビジョン

社会環境 快適な環境で心豊かに暮らせるまちづくり

生活環境 自然を愛し環境を考え行動する
市民のふるさとづくり

廃棄物・リサイクル もったいないから始まる未来
3Rのまちづくり

共通基盤 地球を考え地域から行動するまちづくり

4 協働・共創による計画策定

環境基本計画の策定に当たっては、市民の視点に立った協働・共創による計画作りのため、市民、事業者、NPOの代表からなる環境市民会議を設置しました。

環境基本計画の主要部分である環境ビジョン、柱・分野毎のビジョン、各分野の成果指標と目標値、推進体制などは、環境市民会議が市の意見を取り入れつつ設定したもので、協働・共創の理念を具体化した計画となっています。

5 協働・共創による計画の推進

環境基本計画を推進するため、市民、事業者、NPOの代表からなる環境基本計画推進委員会と、市の関係各課職員からなる環境基本計画庁内会議を設置しました。

推進委員会と庁内会議は、お互い意見や提案を交換しつつ、環境基本計画のビジョン実現のための具体的な事業について検討しています。

また、各分野ごとに設定している目標値の分析と成果向上のための方針なども推進委員会と庁内会議が意見を交換しつつ作成しており、計画の推進と進行政管理も市民、事業者、NPOと市の協働・共創により進めています。

平成 2 7 年度 東海市環境基本計画年次報告書

●編 集

東海市 環境経済部 生活環境課
清掃センター
東海市環境基本計画推進委員会

●お問い合わせ先

東海市 環境経済部 生活環境課
〒476-8601 愛知県東海市中央町一丁目 1 番地
TEL 052-603-2211/0562-33-1111
FAX 052-603-6910
URL <http://www.city.tokai.lg.jp>
E-mail kankyou@city.tokai.lg.jp
